

認知症の理解深める

岡山で
講演会
市民ら170人が学ぶ

世界アルツハイマーデー（9月21日）にちなんで、岡山市北区柳町の山陽新聞社さん太ホールで、市民や医療関係者ら約170人が認知症への理解を深めた。

岡山市認知症疾患医療センター主催）が30日、

医師4人と同市職員が講演。岡山太学院

石原武士・川崎医科

の寺田整司准教授は、大付属川崎病院心療科部長は「薬で治すことはできないが、進行を

に2種類の悪いものがたまる病」と解説し、診断する際のキーワードとして、高齢▽ゆっくり進行▽もの忘れ▽日常生活に支障がある▽を挙げた。

遅らせることは可能」と説明。岡山市認知症

疾患医療センター長の中島誠・岡山赤十字病院精神神経科部長は早期発見・治療のために「日常の小さな変化を見つけ、まずかかりつけ医に相談を」と呼び掛けた。

県の推計によると、県内で認知症の人は2012年度に6万2千人とされ、25年度には8万7千人まで増える

と見込まれる。

（伊丹友香）



世界アルツハイマーデー記念講演会～岡山

アルツハイマー病とは？

アミロイドβ
リン酸化タウ
神経細胞の減少